

会 議 録

会議名称	第6期幸区区民会議 第7回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）
日 時	平成29年5月26日（金） 18：30～20：00
会 場	幸区役所 4階第4会議室
出席者	<p>●区民会議委員（50音順）</p> <p>阿部稔子委員（副部会長）、伊藤善通委員、神谷修委員（部会長）、高橋希委員、中原敏子委員、成川慎一委員（全体会議委員長）、松井節子委員（全体会議副委員長）</p> <p>●事務局</p> <p>幸区役所まちづくり推進部企画課 岸課長、吉岡課長補佐、中村職員 保健福祉センター保育所等・地域連携 石川課長、古川課長補佐 保健福祉センター地域ケア推進担当 野村課長補佐 （株）社会空間研究所 中島氏、田上氏</p>
欠席者	大野勝彦委員、佐野禎彦委員
傍聴者	なし
配布資料	<p>●資料1 「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」調査審議スケジュールイメージ</p> <p>●資料2 子育て世帯等に対する、幸区の魅力に係るアンケート調査結果</p> <p>●資料3 アンケート結果及び発信する魅力の確認について</p> <p>●資料4 魅力の発信方法について</p> <p>●資料5-1 今後の調査について</p> <p>●資料5-2 現地調査日程案</p> <p>●参考資料1 「第6期幸区区民会議」スケジュールについて</p> <p>●参考資料2 第6回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）会議録</p> <p>●参考資料3 第6期幸区区民会議委員・参与名簿</p>
議 題	<p>（1）地域資源の調査結果の検証及び発信していく地域の魅力についての確認</p> <p>（2）今後の調査方法及び調査先についての確認</p>

<p>決定事項</p>	<p>(1) 地域資源の調査結果の検証及び発信していく地域の魅力についての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで出た魅力の整理として、子育て環境（公園等）、子育て支援（子育て支援センター、母親クラブ等による取組）、川崎駅西口の三点セット（ラゾーナ、ミュージア、東芝未来科学館）が挙げられた。 ・より詳細な整理・取りまとめについては事務局及びコンサルタントが行う。 <p>(2) 今後の調査方法及び調査先についての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程調整を行い、6月9日については阿部委員、伊藤委員、神谷委員、中原委員、成川委員、松井委員が三大公園（夢見ヶ崎動物公園、南河原公園、御幸公園）を調査することとなった。 ・6月13日については阿部委員、神谷委員、成川委員が地域子育て支援センターかんがるー及びさいわいふるさと公園において「おでかけぽかぽか」を調査することとなった。（阿部委員はさいわいふるさと公園のみ）
<p>会議の内容 及び 主な発言</p>	<p>(1) 地域資源の調査結果の検証及び発信していく地域の魅力についての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事務局より資料1から資料3について説明した。 ○今まで出た魅力の整理として、子育て環境（公園等）、子育て支援（子育て支援センター、母親クラブ等による取組）、川崎駅西口の三点セット（ラゾーナ、ミュージア、東芝未来科学館）が挙げられた。 ○より詳細な整理・取りまとめについては事務局及びコンサルタントが行う。 <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には公園、緑地を今後どうやって整備していくか、幸区内の30代40代の子育て世代により良い情報発信していくというよりは、子育て支援策をどうやって体系的に皆の手元に、どういう方法で伝達していくところだろうと思う。 ・資料3の所のポイントというのがあって、目的とターゲットのところで議論になるのは、幸区に住み続けてもらうために区内在住の人、それが口コミで区外に広まるという事だが、もうちょっとソフトに区内に絞らず、隣接する川崎区などに広げてもいいと思う。メインターゲットは区内でいい。2ページ目のアンケート結果の整理の所で、公園、緑地が一番高い評価を受けたのは間違いない、それはわかっている。それ以外にも子育て支援、環境の整備、レジャーなども同じ様に、2番目3番目の魅力である。一つだけに整理するのは間違っている。次のステップ3の所、前回の部会の所で公園の魅力以外も書いてある。三つ程度に絞ってある程度考えをまとめていかないといけない時期ではないか。この後どこに調査に行くかもおのずと決まってくると思うし、どういう観点で見るとか、ある程度認識を整理したうえでが良いと思う。 ・やることは決まっていて、公園に人をいかに呼びこむかと、子どもを当て

にしてやってくる中で、おこさまっぷ、これはとても良く出来ているが、市民全員に配るとなったら莫大な費用になる。

⇒毎年 6,000 部刷っている。

- ・6,000 部じゃ足りない。町内会で回覧をまわすときにも 7,000 部程度刷っている。どこで、何をやっているかというのは非常に興味があるので、これが伝われば幸区は良いところだと分かり、人が集まってくる。あとは、どのように発信するかという所に絞って行けばこれについてはほぼ完璧ではないかと思う。
- ・公園については、3 か所自分で見てきたが、一つ言えるのは交通の便が悪く、駐車場が少ない。

御幸公園に行っても駐車場が、精々 5 台くらいで、しかもあそこは野球をやる人がメインで、一般の人は停められないし、私は御幸に住んでいるので御幸公園にどうしたら人を呼べるかなと思って見に行った。近くに多摩川交流センターという施設が出来て、サイクリングで来た人や、ゴルフの受付があるのでその人たちが休んだりしていて満席だった。折角御幸公園の近くにあるので一つの拠点として何か活用をすれば良い。施設には川崎市の冊子も置いてあった。ただ、公園と言う名前だけで遊具がない。人を集めるにはかなり課題が多い。

南河原公園は、色々な人が集まってボール遊びをしたり自転車遊びをしたり、遊具も広場もある。公園内にこども文化センターもある。色々な年齢層が遊びに来ているので、イベントを計画すればもっと人は集まると思った。夢見ヶ崎公園は山の上で交通の便が悪い。動物を見る目的で行くのであれば良いけれど、上って、下って来るだけでも大変だと思った。

一つの提案としては話がそれるかもしれないが、コミュニティバスで川崎駅から始まって、南河原公園に寄って、御幸公園を回って、こども文化センター・市民館があるから幸区役所に寄って、鹿島田駅や新川崎駅経由で日吉出張所、夢見ヶ崎公園を回る。幸病院がやっているような循環バスで 30 分から 1 時間ぐらいで回せば結構人が集まると思う。

子どもについては「おこさまっぷ」があるので、それをいかに媒体にするかということで考えて行けばいいと思う。公園が一杯あるのは分かっても、ただ公園に行っても仕方ない。プラスアルファとなるイベントの発信をいかに繋げるかだと思う。

- ・私のイメージだが、それぞれ一個ずつ魅力があるのはよくわかる。事業全体も、どの事業もいいことだというのはこれを見ればわかる。それをどうやって使っていくか、つなげていくか。前にお話しされたように、この会として横串をさすというか、実際利用される方にとって、もっと活用できる方法はないかを探すことであって、一個一個をブラッシュアップして検討するとい

う事ではなかったと思う。今の資料を見ていると、単体単体になってしまっている。ある一人の人がここを利用するときどういう風に利用するかということ想定していないのかなという感じなので、もう少し目線を変えてもらいたい。

- ・公園とか緑地をまず見学して、不備な所を発見、見出していく。それから親御さんたちは口コミによる情報伝達が多いようなので、その辺りを具体的に口コミというのはどのようにするのか。例えば子育てはおこさまっぷの所や、それぞれの単体での活動があるところに出向いて行って、こういう風な魅力あるところがありますよ、という事をPRするのもいいかなと思う。
- ・これを発信するのがこの部会、どう発信するというのは難しい。おこさまっぷだけでもとてもわかりやすいし、知らなかったのは自分だけなのかもしれないが、良いなと思って読んでしまった。これを発信、となつて考えると難しいと思った。
- ・資料3の目的とターゲットについてはこういう方向という形で、幸区内だけではなく、中原区や川崎区などの隣接区にもこういうものを出して行って、それによって少しずつ幸区に長く住み続けていただいて、それからそういう人たちの口コミその他によって幸区に人が集まってくるということがいいのではないか。公園、子育て支援やその他、今後は出かけて行って色々な話を聞きながら、先ほど話にあった様に行くのに不便や駐車場がないだとか、そういう不備な所を調べながら、それをどうやって改善していくか。改善のポイントを整理していく、それを行政に対して申し上げていくのは区民会議としての大きな役割ではないかと考えている。

社会空間研究所

「ポイントになるのは、一個一個ブラッシュアップするわけではないという話があったが、ただ公園をどうしたらいいか、子育て支援をどうしたらいいかではなかなか魅力発信が出来ないと思う。子育て世代に訴えなくてはいけないのだから、トータル的に見てこんなにいんだよという強みを出してあげないと、幸区っていいねとはいかないのではないかな。今いろいろ話を聞いていて、公園が充実していて、子育ての支援策が非常に充実している。ただそこが発信しきれないところもあると思う。あそび場があって、支援策が充実している、その二つがセットになっているのというのはなかなかないと思う。それをうまく発信できると皆の心に響いてくるかなという気はしていて、強みはあそび場があるのと支援策が充実していること、そこは並行して、二つ揃っているよという所をどんどん発信していけば、いいな幸区って思ってもらえると思う。これだけ支援策やあそび場が充実しているというのはなかなか知られていない。その二本柱があるというのは特徴かなと思う」

- ・前回も言ったが、公園の魅力度アップと子育て支援の整備、これにフォーカ

スしたらどうか。公園の事ばかり言っているから。

- ・ラゾーナとミュージア、その辺の西口地区が商業をけん引しているの、川崎区が落ち込んでいる。マルイは来年閉めてしまうし、さいか屋は閉まっているし、昔は東口が表だったが、今は逆に西口が表になっている。という事も合わせながら、幸区についていろんな面で住みやすくなったという話を子育て世帯に届けられたら一番いいと思う。
- ・魅力というのは具体的にどうするのか。コンサルタントがまとめた進め方に1、2、3とある。何を発信するか、どうやって発信するか、誰が発信するか。まず決めなくてはいけないのは目的とターゲット、それが決めれば、W H A Tの所ですよ。これという①の所、それを整理しきれていない。

社会空間研究所

「例えばあそび場と子育て支援、それがどういう事かというのを語れば、皆がどんなことを発信したいかというのが見えてくる。今キーワード的にはこの二つが出ている」

- ・あそび場となっているが、子育て環境と子育て支援と整理した。子育て環境の大きな要素がアンケート結果から言えば公園である。子育て支援は今日来ている、施設やサービス。サービスの充実だとか、キーワードはそこだと思う。それから西口の三点セット、これは落とせないと思う。
- ・市長さんが言う最幸のまちというキーワード、そういうものを詰め込んで、その中のファクターとして子育て支援、子育て支援の一つのファクターになるのかもしれないけれど緑地とか公園、施設、という形で一つの形にしていくのが一つのやり方だと思う。
- ・公園というのを前に出しているが、公園というのはそんなに魅力というほどではない、といったら失礼かもしれないが、それよりも落ち着いた環境というか、皆さんが温かい環境で子育て支援をやっていることが分かったので、地域の町内会やボランティアの人が子育て広場にはいって、手伝ってくれる人が沢山いるという環境の方が若い人にとって魅力。ただ公園があるという事ではなく、公園があるなら公園を綺麗にしていけばいいだけだが、そこに根付いている人情などが、そういったところ、プラスアルファがこの言葉には入っていないと思うので、公的な支援がありますという意味ではなくて、皆さん、町内会や、歴史のある母親クラブがあって、と他の区にない物があることをわかるお母さん聞けば幸区ってすごいねとなると思う。そこら辺が盛り込まれないと、言葉だけを一個ずつ並べるのだけでなく、ものが生まれていく背景まで考えていただきたいと思う。公園はいいところだが、それ以上に人情というのが特徴的だと感じるの、安心して住んでいられるよ、ご近所さんがとてもいいところだよというのがプラスになるのではないかな。

・整理した中の安全安心というのがそうだと思う。ハートフル幸区というのが。

社会空間研究所

「公園が充実している、の中に、みんなが集まって仲間が出来ますよ、とか、子どもも大人も思いっきり遊べますよとか、安全安心に遊べますよ、とか。子育て支援については子育て支援センターなど気軽に行ける場所がありますよ、おこさまっぷで情報を入手できますよ、あとは子育てを手伝ってくれる人が沢山いますよ、など。そんな人情がある、中でも西口三点セットという最新のものもそろっている。」

・そうやっていくと幸区の魅力が広がってくると思う。

社会空間研究所

「今のところこうなっているが、もう少し深めると発信しやすくなる。そういう意味で現地調査、本来は魅力なのに発見できていないところがあると思う。もう少し具体的に言えるとか。そういう所を、現地調査を通じて発見できると皆さんが心の中から、腹の底から発信できる。」

・見落としとしていて発見できるとすれば最高だが、もう一つ足りないがためにこれじゃ、となっている要素を上げることも必要だと思う。例えばコミュニティバスを走らせるとか、施設を増やすとか。ただ行って帰ってくるだけで発信するものないじゃないか、となるよりは何が足りないか、何があったら良いか、どうしてほしいか、という所まで踏み込んだ形でないと、発見だけで立ち止まってしまうのではないか。

社会空間研究所

「もちろん課題もそれぞれあって、そこを浮き彫りにしてそれぞれ整理する必要があると思う。それもやりつつ、見落としがちな所を発見できたらいい。知っていたけれど、良い物だな、外に出した方が良かったなと思う所を現地調査でやってほしい。」

(2) 今後の調査方法及び調査先についての確認

●事務局より資料4、資料5について説明した。

○日程調整を行い、6月9日については阿部委員、伊藤委員、神谷委員、中原委員、成川委員、松井委員が三大公園（夢見ヶ崎動物公園、南河原公園、御幸公園）を調査することとなった。

○6月13日については阿部委員、神谷委員、成川委員が地域子育て支援センターかんがるー及びさいわいふるさと公園において「おでかけぼかぼか」を調査することとなった。（阿部委員はさいわいふるさと公園のみ）

以上